

[成果情報名]ウメ「白加賀」と開花期の合致する品種の選定

[要約] 奈良県におけるウメ「白加賀」の受粉用品種は、開花日数が比較的長く、「白加賀」との開花期合致日数も長く、花粉発芽率も高い「和郷」が適する。

[キーワード] 受粉樹

[担当] 果樹・薬草研究センター

[分類] 普及・行政・教育の参考となる技術情報

[背景・目的]

本県においてウメは、カキに次いで多く栽培されている果樹であるが、年によって収穫量が大きく変動することが問題となっている。収穫量が減少する原因の1つとして、受粉が十分に行われていない可能性が考えられる。特に本県の主力品種である「白加賀」は自家結実性が低いため、他品種による受粉が不可欠である。現在県内では従前から「南高」等が、「白加賀」の受粉樹を兼ねて混植されているが、特に暖冬で開花が早い年には開花期にずれが生じ、受粉が十分に行えない可能性がある。

そこで、本県での既存主力品種に加えて、栽培事例の少ない品種等を実際に栽培し、開花期や花粉発芽率の観点から、本県における「白加賀」の受粉用品種として適性の高い品種を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 「白加賀」および8品種（表1）の開花期を、県果樹・薬草研究センター（五條市）で2023～2025年の3か年にわたって比較したところ、「和郷」、「林州」および「八郎」の開花日数は、「南高」の13日と比べて18～19日と長く、「白加賀」との開花期合致日数も14～17日と長かった（表2）。
2. 2025年の開花期に花粉発芽率を調査したところ、「和郷」の花粉発芽率は「南高」の53%よりも高い82%であり、「鶯宿」と同程度であった（図1）。一方、「林州」の花粉発芽率は「南高」と同程度であり、「八郎」の花粉発芽率は5%と低かった。
3. 以上の結果から、今回調査対象とした品種の中では「和郷」が、「白加賀」の受粉樹候補として最も有望である。

[成果の活用面・留意点]

1. 開花期調査結果は、県果樹・薬草研究センター内の雨よけハウスにて、2020～2022年に1年生苗を植え付けたポット樹を用いたものである。
2. ウメは、樹勢が強い若木では開花期が遅くなる傾向があるため、植え付けた受粉樹と「白加賀」の成木との開花期が一致しない場合があるので注意する。
3. 近年育成された品種については、自家増殖（高接ぎを含む）には育成権者の許可が必要となるため留意する。なお2025年5月時点では、調査品種のうち「和郷」および「八郎」は農研機構育成の登録品種であり、許諾手続きが必要（有償）である。

[具体的データ]

表 1 検討した品種の概要

品種	概要
改良内田	過去に和歌山県で選抜された品種、「南高」の受粉樹として利用される
星秀	和歌山県育成品種(2021年登録)、自家結実性あり、黒星病抵抗性を有する
南高	主要品種、「白加賀」の受粉樹として利用される
鶯宿	主要品種、「白加賀」の受粉樹として利用される
和郷	農研機構育成品種(2022年登録)、自家結実性あり、果肉割合が大きい
林州	県内の北曾木地区等で古くから栽培、果皮が柔らかく流通に向かない
八郎	農研機構育成品種(2000年登録)、自家結実性あり、果実はやや小さい
節田	東北地方の在来品種、和歌山県の調査では開花期が遅い
白加賀	主要品種

表 2 開花盛期、開花日数および「白加賀」との開花期合致日数の品種間比較

品種	開花盛期 ^z	開花日数 (日) ^y	「白加賀」との 開花期合致 日数(日) ^x
改良内田	2月19日	14	6
星秀	2月19日	11	6
南高	2月20日	13	9
鶯宿	2月20日	14	7
和郷	2月22日	18	14
林州	2月23日	19	14
八郎	2月24日	19	17
節田	3月1日	13	12
白加賀	2月25日	17	-

^z 樹全体の8割が開花した日、2023～2025年の平均(閏年を含むため、各年の開花盛期を2月1日起算の日数に変換して平均値を求め、2025年の日付に再変換したもの)

^y 開花始期(樹全体の2～3割が開花した日)から開花終期(樹全体の8割の花弁が褐変した日)までの日数

^x 各品種と「白加賀」との間で、開花始期から開花終期までの期間が被っている日数

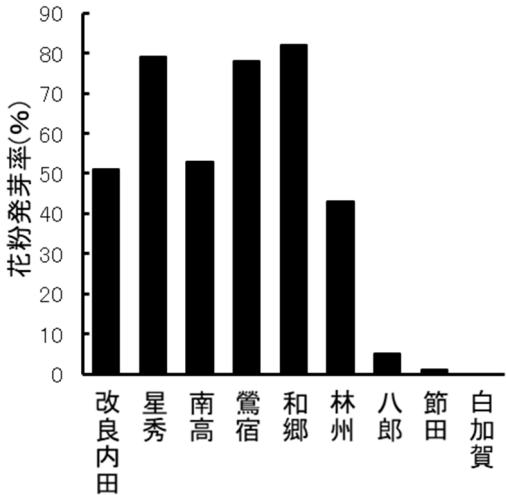


図 1 花粉発芽率の品種間比較
(2025 年 3 月調査)

[その他]

研究課題名：ウメの生産不安定要因の解明

予算区分・研究期間：県単・2022～2024年度

研究担当者：辻本 誠幸

発表誌等：2024 年度奈良県農業研究開発センター成果発表会